

D wing

VOL. 38

ディー・ウイング

この人に
聞く!

第21回 お仕事の **ヒント**

withコロナ時代の
感染対策を
改めて知りたい

第36回 **Care Point**

できる感染対策をしっかりと!
withコロナ時代の
介護



with コロナ時代の感染対策を改めて知りたい

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大によって、感染すると重症化しやすいといわれる高齢者を守るため、介護の現場でスタッフは感染対策を日々実践しています。そこで、感染対策の基本を再確認するため、日本環境感染学会の理事であり、大学病院で感染対策チームに携わった経験もある慶應義塾大学薬学部教授の松元一明さんに、アドバイスをいただきました。

高齢者介護施設のCOVID-19対策の戦略

▼感染対策の基本は3つ
介護の現場では、冬場にはインフルエンザを警戒してきましたが、感染力が強いといわれるCOVID-19に対してはどう対応したらよいでしょうか？

- ①施設内にウイルスを持ち込まない工夫
- ②知らないうちに持ち込まれた場合に備えて早期に持ち込みに気づく工夫
- ③困ったときに相談できる体制の整備

高齢者介護施設での感染対策は、高年齢者が病院とは大きく違う点ですが、①の「持ち込まない工夫」の基本は、病院と同じく手洗いです。インフルエンザでも、COVID-19でも手洗いが一番大事であり、マスクを着用していても、スタッフや入所者さんはまず手洗いをしっかり行ってください。石けんと流水による手洗いの場合、固形石けんには緑膿菌やセラチア菌などが付着している可能性があるため、必ず液体石けんを使います。また、手荒れがあるとその部分は十分に消毒されないため、手荒れ予防のスキンケアも大事です。ポンプタイプの手指消毒用アルコールには保湿剤なども配合されていますので、石けんと流水による手洗いよりも手にはやさしいです。手洗いの他に、食堂、浴室、トイレ、リ

ハビリ室など場所やシーンごとに持ち込まない対策を、全スタッフが理解して行動できるように、ルールを定めておくことが必要だと思います。それによって、感染対策の効果も効率も高くなります。

- ①スタッフが自身は何に注意したらよいでしょうか？
- ②スタッフが職場に持ち込まない工夫として、職場ではやはり手指衛生の励行、咳エチケットの励行、マスク着用の徹底が大切です。特に、出勤時の手指消毒は強化してください。マスク着用については、以前はマスクで感染予防できるといってエビデンスはないので、患者さんだけマスク着用としていました。しかし、COVID-19では発症2日前から感染力があるため、症状のない人も常時マスクの着用が必要という方針が変わりました。コロナウイルスの感染力が強いため、常時マスクを着ける方が良いことになったのです。このことは、COVID-19の出現で変わった点なので知っておいてください。

また、スタッフは自分自身の健康状態に注意を払い、発熱、咳嗽、鼻汁、全身倦怠感を伴う体調の変化を感じた場合は、躊躇することなく、出勤する前に職場に電話で相談しましょう。その場合、自宅で健康観察を行い、軽快すれば出勤可能ですが、マスクを着用し、14日間程度は自身の健康観察(記録



を残す)を継続します。勤務中に体調不良を感じたら、我慢せず必ずすぐに申し出ましょう。入所者さんについても健康の確認が必要ですね

②の「早期に持ち込みに気付く工夫」として、入所者さんの体温や血圧など日常の健康状態を毎日確認して記録します。そうすると、通常より発熱している人が多いなど、「いつもと何か違う」と気づくことが、早期に感知するきっかけとなります。

図 手洗いと注意

1ケア1手洗い、ケア前後の手洗い

手洗いには、
①液体石けんと流水による手洗い
②消毒薬による手指消毒

手洗い: 汚れがあるときは、液体石けんと流水で手指を洗う

手指消毒: 感染している入居者や、感染しやすい状態にある入所者のケアをするときは、洗淨消毒薬あるいは擦式消毒薬を使用する

ただし、嘔吐物・排泄物等の汚染が考えられる場合には、流水による手洗いを行う。

発症を想定した対策も準備

▼知っておきたいゾーニングの方法
COVID-19陽性者や発症者がした場合の対策も考えておく必要がありますね

はい。発熱などCOVID-19が疑われる疑似症の利用者さんがいるとわかったら、診断が確定する前であってもすぐに隔離します。そのため施設内で隔離する部屋と対応エリアを決めておきます。施設によって状況は異なりますが、フロアで分ける、部屋で隔離するなど、ゾーニングで対応できるのが理想です。

ウイルスが施設内に外から持ち込まれたとすると、感染者が1人で終わるとは考えにくく、複数の感染者を想定しておいた方がよいと思います。さらに、軽症のため施設で見ていく場合や、すぐに医療機関に入院できない場合も起こり得ると想定し、施設内での隔離対策を考えておくことが必要でしょう。

ゾーニングのポイントとは？

あまり知られていないと思いますが、ゾーニングでは動線を分けるだけではなく、個人防護具の着脱の場所(着る場所は清潔区域、脱ぐ場所は不潔区域とする)、患者さんの使用前後の医療器材、リネン類、ゴミ、食事などを運ぶルートも決め、清潔区域と決して交差しないようにします。隔離室の担当者を決めておくことも重要です。

清潔区域の維持は難しいですね。そうなのです。例を挙げると、防護服などは脱ぐときに周囲を汚染しやすいことがわかっています。汚染された使い捨ての手袋とガウンを脱ぐ方法にも手順が決まっています。まず片方の表面をつかみ手袋を裏返すように、はずしてもう一方の手袋の中に握り、手袋をはずした手を手袋の内側に差し入れて裏返しながら引き抜きます。次に、ガウンは汚染面に手が触れないように脱ぎます。このように汚染面と

非汚染面が接触しないように脱ぐのですが、実際に学生で実験すると汚染面と非汚染面が結構接触していることがわかります。日本環境感染学会による「高齢者介護施設における感染対策第1版」¹⁾では、手袋やマスク、ガウンなどの個人防護具の着脱方法を予め練習しておくようにという注意があります。日本環境感染学会では、適切な着脱方法をイラストで紹介していますので、参考にしてください。

図 隔離室とゾーニング

利用者に発熱などの症状(疑似症)が発生した場合の隔離病室と対応エリアを決めておく

●介護スタッフが活動しやすい
●ゾーニングしやすい(清潔区域と不潔区域を明確に区別しやすい)などを基準に決める

の連絡体制を確認しておきましょう。日本環境感染学会では「新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト」²⁾をアップしています。自施設での対策状況の確認のためにご利用ください。

Message
適切で信頼できる情報を選び、感染対策に活用しましょう



松元 一明さん 慶應義塾大学薬学部 教授
一般社団法人 日本環境感染学会 理事

■いまCOVID-19に関連する情報が世の中にあふれています。感染対策についても、誤った情報や既に古くなった情報も含まれています。そういった中から、信頼性が高く、かつ最新の情報を選択し、各施設の状況に応じて生かすことが重要です。

■日本環境感染学会では、ホームページにおいて高齢者介護施設における具体的な感染対策を公開しています^{1~4)}。手洗いやマスク着用のほか、換気や器材消毒、日常清掃、配膳、リネン管理、食事やリハビリなどの際の対応方法や注意について、具体的に示されています。高齢者施設では、これらを参考にして、各施設の環境や状況に合わせて対応されるとよいと思います。

■感染対策に詳しいスタッフがいないときに困ったときには、高齢者介護施設のスタッフのためにメールによる相談窓口も設けています。どうぞご利用ください。

日本環境感染学会
新型コロナウイルス感染症対策についての相談窓口
E-mail : jsipc-toiwase-ML@umin.ac.jp

参考 (日本環境感染学会ホームページ等で公開)
1) 高齢者介護施設における感染対策 第1版(2020.4/3 公開)
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/koreisyakaigoshise_tsu_kansentaisaku.pdf
2) 高齢者福祉施設従事者のためのQ&A(第2版)(2020.5/26 公開)
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/koureyasyashisetsu_Q&A_2.pdf
3) 新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト(2020.7/22 公開)
http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=328
4) (動画) 福祉・介護施設における新型コロナウイルス感染症の対策
<https://www.youtube.com/watch?v=0vH1FPr5gFA&feature=youtu.be>
(2020.3/25 公開)

できる感染対策を しっかりと! with コロナ時代の 介護

【監修】
たかせクリニック 理事長
医学博士
高瀬 義昌



すでに多くの介護施設では感染対策ガイドやマニュアルなどを作成し、感染対策を実践しながら介護にあたっています。しかし日々新しいニュースを見聞きすると、適切な感染対策ができていないか、気になることがあるかもしれません。COVID-19と感染対策について介護スタッフに知ってもらいたいポイントを、在宅医の高瀬義昌さんに聞きました。

前向きにwithコロナ時代の介護に取り組みましょう。

「ではないかと思えます」と高瀬さんは話します。

選んだ情報を参考に、各施設で感染対策ガイドやマニュアルを作成しスタッフで共有して実践しましょう。そして、地域を守っている医師や看護師と情報交換し、連携を強めましょう。

施設でクラスター発生！ どうする？

新型コロナウイルスに感染すると5日程度で発症し、発症2日前ぐらいからウイルスを出して他の人に感染させることがわかっています。また、感染しても無症状でも人に感染させる危険があります。そうすると、介護施設でクラスターが起こることも想定しておく必要があります。

型コロナウイルスの感染疑いが発生したときの対応のために、「介護施設等における新型コロナウイルス感染症の対応フロー図及び対応チェックリスト」を作成し、ホームページで公開しました。介護サービス系統別に「入所系」「通所系」「訪問系」の対応が示されているので、参考になるでしょう。



入所者さんに寄り添いながら感染対策

入所者さんの中には、手洗いやマスク着用などの目的をよく理解できない方もいるでしょう。介助される側にもストレスとなるため、介護スタッフはつらいところですが、手洗いなどの清潔動作は注意深く介助を行わせるを得ない状況です。コミュニケーションの基本に立ち返り、まず

相手の感情をそのまま受け止め、その後ポジティブな言葉で返す、これを繰り返すことです。



諏訪中央病院 玉井道裕医師による「新型コロナウイルス感染症のりこえるための説明書（病院・施設編）」¹⁾

東京都医師会は、介護施設で新

入所者さんの中には、手洗いやマスク着用などの目的をよく理解できない方もいるでしょう。介助される側にもストレスとなるため、介護スタッフはつらいところですが、手洗いなどの清潔動作は注意深く介助を行わせるを得ない状況です。コミュニケーションの基本に立ち返り、まず

これだけは介護スタッフに知ってもらいたいこと

新型コロナウイルス感染を予防し、入所者・利用者さんの重症化を防ぐために、介護の現場で知っておいてもらいたいポイントをまとめました

1 基本は、やはり「手洗い・うがい」^{1,3)}

- COVID-19 対策は、インフルエンザ対策の延長にある。多くの専門家が言っているように、感染予防はまず「手洗い・うがい」。
- 発熱している人の介助をする場合は、エプロンやフェイスガード、使い捨ての手袋を利用する。または1動作ごとに必ず手洗いや手指消毒をする。介助される人にもストレスがかかる状況だが、施設内の全ての人を守るために必要な対応である。
- 手で新型コロナウイルスが付いているものを触り、その手で口や鼻を触ると感染のリスクが高くなる。特に手と爪の間にウイルスが付くと、手洗いや手指消毒をしても残っている可能性がある。常に肩より上に手を挙げないように注意し、手で顔を触らないようにする。

2 外出時は素手の接触を避ける

- 施設にウイルスを持ち込まないために、外出時には不特定多数の人が触るものを素手で触らないように気をつけることが大切。
例)・エレベーターのボタンなどは、ひじで押す
- 手袋をつける（使い捨てのプラスチック素材である必要はなく布製でよい）
- 外出時には携帯用のアルコール消毒液を持ち歩き、手で何かを触るたびに消毒するとよい。

3 肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの接種⁴⁾

- COVID-19 は呼吸器感染症なので、感染するとそこから肺炎球菌やインフルエンザによる肺炎を併発することがある。
- 特に高齢者は重症化する心配があるため、利用者・入居者をはじめスタッフや接する可能性のあるご家族も、65歳以上の場合は肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンを接種する。
- 日本では高齢者に使用できる肺炎球菌ワクチンが2種類あり、両方とも接種することをお勧めします。より多くの肺炎球菌をカバーするワクチンと、免疫誘導能力が高いワクチンを併用することによって、高い予防効果が期待できる。

製薬名	ニューモバックス NP®	プレベナー 13 水性懸濁注®
有効成分	23 価肺炎球菌ワクチン 肺炎球菌には 90 種類以上の血清型があり、そのうち 23 種類（成人の肺炎球菌感染症の原因の約 6~7 割）の予防を対象にしたワクチン	沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン 13 種類の血清型の肺炎球菌感染症の予防を対象にしたワクチン
接種について	・高齢者を対象に市区町村で定期接種（65 歳から 5 歳刻み）が行われている ・定期接種に公費負担がある	・任意接種 ・予防効果は約 10 年と言われる

4 誤嚥性肺炎を防ぐ

高齢者が COVID-19 に誤嚥性肺炎を併発すると、重症化することが予想される。歯科医と連携して誤嚥性肺炎を防ぐことが大切。

5 禁煙⁵⁾

- 意外に知られていない盲点が喫煙。COVID-19 は気道感染が主症状なので、喫煙は COVID-19 の重症化と関係することが研究で明らかになっている。
- 喫煙者および過去に喫煙していた人は、非喫煙者よりも重症化しやすく、また人工呼吸器装着や死亡に至るリスクが高いことが報告されている。日本禁煙学会も学会ホームページで警告している。「新型コロナウイルスに感染したら禁煙しよう」では手遅れなので、この機会に喫煙者には禁煙してもらおう。

<参考>

1) 諏訪中央病院総合診療科 玉井道裕医師による「新型コロナウイルス感染症のりこえるための説明書（病院・施設編）～万が一に備え new normal を探そう～」（2020年5月25日公開）
https://www.suwachuo.com/pdf/hp-shisetsu.pdf?_ga=2.74000210.1347905127.1596420560-1924556850.1591669779

2) 東京都医師会「東京都新型コロナウイルス感染症対策医療介護福祉サービス等連携連絡会」による「介護施設等における新型コロナウイルス感染症の対応フロー図及び対応チェックリスト（改訂版）【令和2年6月18日版】」※介護サービス系統別に「入所系」「通所系」「訪問系」の3種類あり
<https://www.tokyo.med.or.jp/16698>

3) ビデオ「高齢者のための手指衛生」国立長寿医療研究センター病院 <https://www.ncgg.go.jp/hospital/news/20200525.html>

4) 厚生労働省：肺炎球菌感染症（高齢者）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekaku-kansenshou/haienkyukin/index_1.html

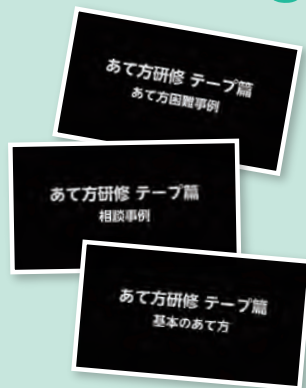
5) 日本禁煙学会「喫煙は新型コロナウイルス感染症の悪化と関連する：メタアナリシス」日本禁煙学会 理事 松崎道幸・訳（2020年7月13日公開）
<http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/information/2020.7.3Corona%26SmokingMetaanalysis.pdf>

「おむつの上手なあて方」研修用DVDを作成しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、弊社が現場の皆さまのもとにうかがって実践してきた研修会にも及んでいます。この状況に対応すべく、右のページでもご紹介したように、弊社でもオンラインセミナー・研修会を開催できるよう現在準備を進めているところです。



それに先立ち、「おむつの上手なあて方」研修会の内容をDVDとしてまとめたものを新たにご用意いたしました。施設内研修を実施の際は、お貸しいたしますので、是非、担当セールスにお声掛けください。これまで以上に皆様のご要望にお応えできるよう、オンライン開催など、新しいツールも活用しながら、研修会の開催に取り組んでまいります。



こんにちは

今回の「こんにちは」では、広島県福山市に複数の拠点を展開する株式会社ライフアシスト様におじゃませず、オンラインでの取材を行いました。

2020年12月に開設するショートステイ あしすと万能倉

広島市と岡山市のちょうど真ん中にある福山市に、複数の介護・福祉拠点を展開しているライフアシストさん。今年の12月に新しくショートステイ単体の施設をオープンするに当たり、白十字にオンライン研修のご要望をいただきました。折しも「こんにちは」の取材についてオンライン化を検討していたタイミングだったこともあり、これ幸いにと取材させていただくことになりました。



事業部長の門田さん、在宅介護課の碓野課長、上田係長にそれぞれ2拠点からご参加いただき、まずはいわゆる「コロナ対応」についての話題からお聞かせいただきました。

「感染拡大初期の対応として有料老人ホームは閉鎖しましたが、デイサービス・ショートステイのような在宅介護を支えるサービスを止めることはできません。まず事業所間、フロア間の移動を禁止しました。デイサービス・ショートステイの場合「外部からウィルスを持ち込まない」ことが最重要課題です。職員に対しては外食や人が集まる場所への外出を控えるなど、新しい生活様式の徹底を指示しました。アルコールは小分けにして各人に持たせ、マスクと共に帰宅時にも持って帰るように。そしてアルコールによる手荒れ防止のために、手荒れ防止ジェルを出勤時に塗布しました」。ライフアシストさんでは比較的早期にマスクの手当てができていたようで、職員の家族からも、感染と隣り合わせの職場環境で働く家族に対する法人としての体制を評価されたとのことでした。「ご利用者さんに対してはお迎え時に乗車前の検温と手指消毒、さらに施設に入

際にも検温と手洗い、施設内では換気をして密な状況を作らない、といった対応を1つ1つ実践しました。あとはアルコールの不足に備えて消毒剤を使用目的に合わせて細かく変えるようにしました。

12月1日オープン予定のショートステイ「あしすと万能倉」でも「これからは感染させない」ことがキーになるだろうということで、リハビリ強化施設にする予定で組んでいた予算を感染予防策に配分し直して設計変更をかけられたそうです。「非接触で開くカードキーのほか、オゾン発生機、殺菌機能が付いた自動給水型の加湿器などを揃えました。あとは病時区画管理ができるように工場にあるシートシャッターを導入しました。感染者がいる場合、4人:16人での隔離、もしくはフロア全体ならば20人の隔離が可能となります。地域の防災拠点でもあり、朝夕無人化厨房を導入しました。災害時には何日か分のご飯がストックされている状況になります」。ショートステイ



単独の施設として60床のベッドを備えるこちらでは、300人の利用者を支える施設となるのだとか。これからは誰もが24時間365日、介護施設に入っている時代ではなくなります。この在宅所相互利用のような形を60床のショートステイで実現し、さらに地域の中での災害拠点の役割をも担う。介護福祉施設のこれからの姿の1つだと感じました。

新施設の設計変更を判断された時期を聞いたところ
今年の2月の段階ということで、
先を見通した経営判断の素早さに、とても驚かされました。



新型コロナウイルス感染対策で「家族に会えない!」でも「会いたい!」から

オンライン面会

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、数多くの高齢者施設が入所者さんの外出やご家族らとの面会を休止しました。社会福祉法人 稲寿会が運営する特別養護老人ホーム「裕和園」(千葉市)では、入所者さんとご家族らとの間の「オンライン面会」に取り組んでいます。入所サービス課・課長の高橋秀明さんにお話をうかがいました。

入所者さんやご家族の嬉しいような様子を間近で見ることができ、感染対策で張りつめていたスタッフの心もほつりりと温かい気持ちになります。また、オンライン面会は今後の介護のICT化のきっかけになると感じています。実際に「入所者さんたちの生活の質を高める」ことができるのであれば、今後はもっとICTを活用していったほうがいい」という声からスタッフが

● スタッフの意識にも変化が

もう一つ、感染対策のために様々な制限をせざるを得ないというところは分かっているのですが、入所者さんの生活の質を高めるために「創意工夫すればできることがある」とスタッフ自身が気づいたことです。これは新しい介護を生み出すために大切な気づきの経験だと思っています。これからは入所者さんのために、様々な工夫をしていきたいと思っています。

● 入所者さんやご家族の不安に答える

「実際のオンライン面会はどのような様子ですか?」
認知症のある方でもご家族の顔を見ると一瞬で笑顔になり、「ご家族も安心され、「元氣?」「飯は食べている?」などやりとりしています。会話がうまくかみ合わなくても、互いに柔らかな表情で

「オンライン面会を始めたきっかけは?」
新型コロナウイルス感染症の拡大で、当施設では2月末から面会をとりやめ、入所者さんはご家族に会えなくなり、寂しい思いをされていきました。3月半ばになるとご家族から「感染者は出ていませんか?」うちの母は元気に

「顔を見るだけで安心

見つめ合っています。難聴の方の場合、ご家族は事前に筆談ボードを用意して、スムーズにやり取りしていました。入所者さんの足のむくみを心配されているご家族には、足を映してお見せしました。実施して感じた課題など

「これまでに実施した面会は?」
4月6日から開始し、これまで

● 入所者さんやご家族の不安に答える

「オンライン面会を始めたきっかけは?」
新型コロナウイルス感染症の拡大で、当施設では2月末から面会をとりやめ、入所者さんはご家族に会えなくなり、寂しい思いをされていきました。3月半ばになるとご家族から「感染者は出ていませんか?」うちの母は元気に

「顔を見るだけで安心

見つめ合っています。難聴の方の場合、ご家族は事前に筆談ボードを用意して、スムーズにやり取りしていました。入所者さんの足のむくみを心配されているご家族には、足を映してお見せしました。実施して感じた課題など

「これまでに実施した面会は?」
4月6日から開始し、これまで



Column

オンラインでの研修サポート



「こんにちは」でもご紹介したように、オンラインでの研修会開催に対するご要望を多数いただくようになってきました。白十字社内においても、在宅勤務のほかオンライン会議システムを導入して社内コミュニケーションの新しい形を整えています。オンラインでの研修を行う通信インフラなどにご不安がある場合には、次のページでご紹介する研修用DVDをご活用いただけるよう、様々な現場の状況に合わせてメニューを充実させているところです。11月に開催する介護の日Dケアセミナーもオンラインでの開催となりますが、報告書は印刷物としてご用意するなど、デジタルとアナログの良いところをうまくミックスしながら現場の皆様のサポートを続けてまいります。

オンライン面会実施の手順

- ①手紙でオンライン面会の実施をお知らせ希望する家族から申し込み
- ②オンライン面会のマニュアルとLINEのQRコードを送付
- ③ご家族がQRコードを読み取って友達登録する施設側に入所者名でLINEを送る
- ④ご家族が面会予約(施設に電話)
- ⑤予約日時にスタッフが入所者さんに付き添い、施設のスマホからご家族にLINEビデオ通話をかけるスマホの画面越しにオンライン面会(15分程度)



特別養護老人ホーム 裕和園 入所サービス課 課長 高橋秀明さん

簡単

快適

 **ケア楽**
おしり洗浄液

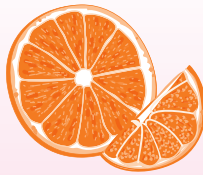
すっきり清潔! すすぎいらす!

販売名: サルバケア楽おしり洗浄液



内容量 390mL
(約 130 回分)

お肌ケアを
考えた
弱酸性



オレンジの香り
【オレンジオイル配合】

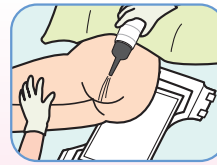
ご使用方法



1 洗浄液を作る

ポンプ1プッシュ(約3mL)を
微温湯で300mLに薄めて
ください。

※微温湯…38~40℃のお湯



2 洗い流す

おしりにシャワーして
汚れを洗い流します。



3 拭き取る

洗浄後、余分な水分をこすらずに
やさしく押しあてるように拭き取り
ます。すすぎの必要はありません。



1本に



の成分配合

洗浄成分

PEG-6 コカミド

低刺激の洗浄成分が
肌の汚れを落とします。

保湿成分

セラミド 2

人の肌に存在するセラミドと同じ構造の
天然型セラミド。肌に潤いを与えます。

ヒアルロン酸 Na

高い保水力で
肌の乾燥を防ぎます。

肌保護成分

ジラウロイルグルタミン酸リシン Na

植物由来で高い保湿性を持つ成分が肌を保護します。

編集部より

非常事態と言える状況はひとまず落ち着き、少しずつ日常が戻ってきているように見えますが、戻ってきたのは明らかにコロナ以前とは異なった日常です。現場の皆様様の働き方も、白十字と現場の皆様との関わり方も大きく変わりました。

そんな中で情報のご提供を通じて白十字ができることとは何か、を改めて考えて今号のD-wingは編集にあたりました。「こんにちは」ではオンラインの取材でコロナへの対応についてうかがい、多くの学びを得ました。

この冬はどんな冬になるのか未知なことばかりですが、正しい情報を選び取る目を持ち、過度に不安に陥ったりしないように心がけたいと自分自身を戒めています。

お問い合わせ
お便りは

白十字株式会社
「D-wing」編集部まで

〒171-8552
東京都豊島区高田3-23-12